

91



佛國裁判言渡書式

翻譯課

庫文省法司			
		政	和
		治	書
		法	
		律	
		部	門
一	冊	架	函
		號	

B510
S 3
16



佛國
裁判書式言渡

木下哲三郎 訳

司格名訳
B870
S6-114
A.C.

木下—訳.

白字一頁
佛國裁判言渡
卷式

佛國裁判書式

佛國大審院判決例

佛國控訴院判決書式

佛國民事初告裁判書式

佛國重罪審院判決書式

佛國違警罪裁判所裁判書式

(第一) 罰金宣告書式

(第二) 禁錮宣告書式

外國人ノ執行權ニ
關スル裁判管轄
民事裁判
六十九年判決錄
民事裁判ニ
關スル民事編千八百六十九年判決錄抄譯





佛國大審院判決例

佛蘭西人民ノ名ヲ以テ佛蘭西共和政治ハ

大審院ハ判事某君ノ上申及ヒ原告代言人某氏

被告代言人某氏ノ申立大代言士某君ノ論結ヲ

聽キ

民法第何千何百何十條及ヒ第何千何百何十條ヲ

見……サルヲ以テ(此所ニ破毀ノ理由ヲ記ルス)

右ノ理由ニ依リ何年何月何日巴理ノ控訴院ニ

於テ何某ト何某ニ下シタル判決ヲ破毀シ及ヒ

取消シ訴訟人ヲ右ノ判決ヲ下サ、ル前ト同様

ノ位置ニ引戻シ法律ニ適合シテ裁判ヲ受ケシ

ムル為メ訴訟人ヲリラシ控訴院ニ送付ス且ツ

罰金ノ返還ヲ命令シ被告某ニ訴訟入費何ヲ

シノ拂方ヲ申付ル

巴理控訴院ノ大檢事ノ請求ニ依リ本判決書ハ
該控訴院ノ簿冊ニ登記シ原判決書ノ欄外ニ破
毀ノ旨ヲ記ス可シ

何年何月何日大審院民事局ニ於テ公判ス公廷
ニ出席スル者ハ判事長某君判事某某諸君大代
言士某君書記某氏ナリ

判決本書ニハ判事長及書記ノ手署アリ其手
署ハ、、スノ如シ又欄外ニハ左ノ如ク記セ
リ

某年某月某日登記紙數何枚何行登記税何アラ
シ領收手署

總テノ使吏ハ請求ニ應シ本判決ヲ執行シ大檢

事及ニ初告裁判所ノ檢事ハ執行ヲ指揮シ公力
ノ司令官及ニ士官ハ法律ニ適スル請求アルキ
ハ之ニ公力ヲ貸與スニテヲ依頼シ且ツ命令ス

大審院書記某手署

譯者曰ク大審院判決ノ書式民事刑事ニ皆同シ

佛國控訴院判決書式

佛蘭西人民ノ名ヲ以テ佛蘭西共和政治ハ
巴理府控訴院ハ千八百六十九年五月三十一日
ノ公廷ニ於テ裁判ヲ下ス

控訴人「ア」氏 代理人「ベ」氏 附添代訟人「セ」氏

被控訴人「デ」氏 代理人「エ」氏 附添代訟人「エ」氏

論決ヲ為シタル大代言士「ジ」氏

右控訴人被控訴人及ニ大代言士ノ申立ヲ聽キ
左ノ如ク判決ス

凡ソ自己ノ所有地ヨリ生スル物件ヲ賣ルハ法
律上ニ於テ商業ニ非ス此原則ハ商法第六百三
十二條及ニ第六百三十八條ニテ明カナリ
河邊ノ地ヲ所有スル者ノ其河水ヨリ得タル川

魚ハ即チ所有地ノ果实ナレハ所有者其川魚ヲ
賣ルモ商業ニ非サルナリ
其所有者漁場小作トシテ他人ニ貸典エルモ果
実收入ノ權ヲ貸典エル者ニシテ商業ニ非ス故
ニ小作人ノ捕獲シタル川魚ヲ賣ルモ亦商業ニ
非ス

控訴人「ア」ヨリ申立ル所ノ事實及ヒ原裁判所ニ
於テ吟味ヲ遂ケタル證人申口ニ因リ「ア」ハ「オ」
ク溝河ノ一部ヲ借受ケ此ニ捕獲スル所ノ魚類
ヲ自カラ賣却シ又ハ仲買ニ依テ賣却シ河魚上
リ高ノ利益ノ一部ヲ得ルモノナリ
其他更ニ商業ノ性質ヲ付スヘキ事實ナシ
此理由アルニ因リテ巴理商事裁判所ノ裁判ハ

管轄違ノ裁判ニシテ控訴ニ理アリ依テ原告「ア」
ハ管轄ノ民事裁判所ノ判決ヲ受クモノト判決
ス
外ニ初告控訴ノ裁判入費ハ被告「テ」氏之レヲ擔
當シ既ニ上納シタル原告代訟人「ヤ」氏ニ之レヲ
返償ス可シ
又罰金ノ返還ヲ命令ス
巴理府控訴院ノ公廷ニ於テ聽訟ニ裁判ス該公
廷ニ出席スル者ハ裁判所長某君判事某某諸君
大代言士某君書記某氏ナリ
判決本書ニハ裁判所長及ヒ書記ノ手署アリ其
手署ニ、ニ、斯ノ如シ又欄外ニハ左ノ如ク記セ
リ

其年某月某日登記紙數何枚何行登記稅何ヲラ
シ領收手署
總テノ使吏ハ請求ニ應シ本裁判ヲ執行シ大檢
事及ヒ初告裁判所ノ檢事ハ執行ヲ指揮シ公力
ノ司令官及ヒ士官ハ法律ニ適スル請求アル片
ハ之レニ公力ヲ貸與ヘンヲヲ依頼シ且ツ命令
ス

書記 某手署

譯者曰ク控訴院判決書式民事刑事皆十同シ

佛國民事初告裁判ノ書式

佛蘭西人民ノ名ニ於テ佛蘭西共和政治

セリ又州巴理府ノ初告民事裁判所ハ千八百七

十七年十一月十三日ノ公庭ニ於テ原告被告人

ノ間ニ判決ヲ下ス

原告人千八百七十六年某月某日ノ日附ニテ登

記シタル使吏ガ「ル」氏ノ手ヲ經訴訟始起ノ呼

出狀ニ記シ代訟人「ベ」氏ノ附添ニテ代訟人「オ」氏

ヲ以テ出訴シ及出席シタル「亡」氏ノ相續

人巴理リセリ「ユ」町拾ニ番地住居縫裁職「ア」氏

被告人同上ノ呼出狀ニ記シ代訟人「テ」氏ノ附添

ニテ代訟人「エ」氏ヲ以テ出訴シ及出頭シタル

巴理府「ル」井町百三十五番地住居「エ」氏

右原被兩造ノ身分ハ双方ノ權利ヲ害スルヲ莫
カル可シ

事實ノ項

原告「ア」氏ノ七父「ル」氏ハ千八百四十六年八
月一日金一万「ラ」ラ「ン」ヲ被告「エ」氏ニ貸典工千
八百五十六年ニ死亡シタリ「ア」氏ハ貸金返還ノ
儀ヲ「エ」氏ニ催促シタルニ「エ」氏ハ千八百七
十六年八月一日迄ニテ三十年ヲ經過スルカ故
ニ人權ハ期滿得免ヲ以テ消滅セリトシテ返還
スルノ義務ナシト主張ス
右事件ハ勸解ニ出タレ「ル」氏調和セズ其不調ノ趣
ハ千八百七十七年某月某日ノ日附ニテ登記シ
某區ノ治安裁判官「シ」エ「ス」氏ノ記造セル勸解不

調ノ調書ノ如シ其勸解不調ナルヲ以テ原告「ア」
氏ハ千八百七十七年某月某日ノ日附ヲ以テ登
記ニ使吏「カ」ル「ル」氏ノ手ヲ經テ被告「エ」氏ニ千
八百七十七年十月十日巴理府初告裁判所ニ出
頭ニ原告人ヨリ訴出テタル期滿得免ノ時日ハ
未タ完全セサルノ主旨ニ答辯ス可キ旨ヲ申送
リタリ
右申送状ニハ外ニ「ア」氏ノ為メニ代訟人「ベ」氏ヲ
設置シタルヲ記セリ
其願ニ依リ千八百七十七年某月某日代訟人ヨ
リ代訟人ニ送ル書付ヲ以テ被告「エ」氏ノ為メ
ニ「テ」氏ヲ其代訟人ト定ム
本件ハ大簿冊ニ記録シ之ヲ裁判所ノ民事第二

局ニ配付セリ

原被雙方出廷シ互ニ訴訟ノ主旨ニ付キ論結シ

タル後テ訴訟全件ヲ訟庭記簿ニ登録セリ

千八百七十七年某月某日ノ日附ニテ登記シタ

ル代訟人ヨリ代訟人ニ送ル書ヲ以テエス氏ノ

代訟人テ「」氏ハ其答弁書ヲ原告代訟人「」氏ニ

送レリ

千八百七十七年某月某日ノ日附ニテ登用シタ

ル代訟人ヨリ代訟人ニ書付ヲ以テ「」氏ノ代

訟人「」氏ハ答弁書ニ答フル弁明書ヲ送レ

リ

遂ニ千八百七十七年某月某日ノ日附ニテ代訟

人ヨリ代訟人ニ送ル書付ヲ以テ「」氏ヨリ千八

百七十七年某月某日裁判所ニ出ス可キ旨ヲ「」

氏ニ申送タリ

斯ク手續ヲ經タル事件ハ當日訟庭使吏ヨリ申

聞セ裁判所ニ出訴シタル事柄ニ付原被兩造ノ論

結スル左ノ如シ

第一原告人「」氏ノ代訟人「」氏

千八百七十七年某月某日ノ日附ニテ登記シタ

ル使吏ガ「」氏ヨリ發タル呼出状ニテ原告人

トナリ而テ其代訟人「」氏ヲ以テ出庭シタル「」

氏ハ同上ノ呼出状ニテ被告人トナリ而テ其代

訟人「」氏ヲ以テ出庭シタル「」氏ニ對シテ論

明ス

原告ノ七父「」ルハ千八百四十六年八月一日

ニ金一万フランヲ被告「エ」ニ貸與エタル「ハ」
其部公認人ノ作造ニ係ル公成證書アリテ明白
ナリ是ヨリ十年ヲ過キ千八百五十六年八月一
日ニ至リ權利者「メ」ル死亡シ其子即チ原告「ア」
ハ不特定ノ名義ニテ相續ヲ承續タリ其不特定
ノ名義アルカ故ニ原告ハ死者ノ權利ト義務ヲ保
セ受ケルモノナリ然ルニ原告ハ其時十五歳ノ
幼者ナリ今マ被告ハ千八百四十六年八月一日
ノ契約ノ日ニ遡リ年月ヲ數レハ三十年ヲ經過
シ期滿得免既ニ成ルヲ以テ負債ヲ拂フノ義務
ナシト弁明スルト虽モ原告カ幼年中即チ千八
百六十一年迄五ヶ年間ハ原告ニ對シ期滿得免
ノ進行ヲ停止スルモノナリ

此理由ト他ノ証憑アルヲ以テ裁判所ハ被告「エ」
「ス」ニ負債一万フランヲ返還スヘキ旨ヲ申渡サ
レシ「フ」ヲ申立タリ

第二被告人「エ」氏ノ代訟人「テ」氏ハ

千八百七十七年某月某日ノ日附ニテ登記シタ
ル使吏「ガ」ル氏ヨリ發シタル呼出狀ニテ被告
トナリ其代訟人「テ」氏ヲ以テ出庭シタル「エ」氏ハ
同上ノ呼出狀ニテ原告トナリ其代訟人「ベ」氏ヲ
以テ出庭シタル「ア」氏ニ對シテ辨明ス
七「メ」ルヨリ一万フランヲ借入レシハ千八百
四十六年八月一日ノ古ニ在レハ今年即チ千八百
七十七年八月一日ヨリ計レハ既ニ三十年ヲ經
過シ其遠久ナル三十年間一度ニテモ債主ヨリ

催促シタルトナシ是レ期滿得免ノ要件ヲ具備
スルモノナリ云々
此理由アルニ依リ裁判所ハ原告ア氏ニ負債返
還ヲ要ルノ權利ナキ旨ヲ申渡サレニテ申立タ
リ
右原被双方ノ論結ハ訟庭ノ弁論ニ於テ双方ノ
代言人ヨリ詳ニ申立テタリ又裁判所ハ檢事ノ
意見オモヒ聽キタリ
訴訟ノ本件斯ノ如シ之ヲ要スルニ裁判所ニテ
判決スヘキハ次ノ問題ナリ
法律ノ項
裁判所ハ被告エス氏ヲシテ負債ヲ拂ハシムル
ノ權利アリトスルア氏ノ願ハ理アル者ト認定

ス可キ乎
訴訟入費ハ原被ノ中何レノ擔當スヘキモノナ
ル乎
裁判所ハ原告ア氏ノ代訟人ベ氏ノ附添アル代
言人オ氏及被告エス氏ノ代訟人テ氏ノ附添ア
ル代言人エル氏双方ノ弁明及論結ヲ聞キ、檢事
某氏ノ論結ヲ聞キ、法律ニ循テ會議シタル後テ
始審ノ裁判ヲ下ス
被告エス氏ハ原告ア氏ノ亡父ハル氏ヨリ一
万フランヲ借受タルトハ公正証書アリテ明白
ナリ
契約ハ千八百四十六年八月一日ニ成ルモノナ
レハ千八百七十七年八月一日迄ニ三十年ヲ經

過シルル氏ノ相續人ヨリ一度モ返濟ノ儀ヲ
催促サレタルトシト雖モルル氏ハ千八百
五十六年八月一日ニ死シテアル氏之レヲ相續ス
其時當人ハ十五年ナルカ故ニ千八百六十一年
八月一日迄五ヶ年間ハ期滿得免ノ進行ヲ停止
シ千八百八十一年八月一日ニ至ラサレハ期滿
得免ノ時間ヲ完全セス
此理由アルニ拠リ
期滿得免ハ切者ニ對シテ進行ヲ停止スト明文
セル民法第千二百五十二條ヲ見
被告エスハ原告アルニ負債一万フランヲ返濟ス
ヘシト申渡ス
又被告エスハ一切ノ訴訟入費ヲ拂フヘシ

セリ又州巴理府民事初告裁判所ノ公庭ニ於テ
聽訟シ裁判ス該公庭ニ出席スル者ハ裁判所長
某君、判事某某諸君、檢事某君、書記某氏ナリ
裁判書本書ニハ裁判所長及書記ノ手署アリ其
手署ハ………斯ノ如シ又欄外ニハ左ノ如
ク記セリ某年某月某日登記紙數何枚何行登記
税何フラン領收手署
總テノ使吏ハ請求ニ應ジ本裁判ヲ執行シ大檢
事及初告裁判所ノ檢事ハ執行ヲ指揮シ公力ノ
司令官及士官ハ法律ニ適スル請求アルキハ之
ニ公力ヲ貸與ヘシトテテテテテテテテテテテ
書記 某手署

譯者曰ク佛國裁判申渡ノ法タル公庭ニ於テ

裁判所長口上ニテ裁判ヲ言渡シ書記傍ニ在
リテ一々其文言ヲ簿冊ニ筆記ス其簿冊ヲ原
簿ト云フ申渡畢リテ書記又其原簿ニ因リ裁
判ノ理由及法条ニ闡スルモノヲ拔抄シ公庭
用紙ニ記シ其欄外ニ判事檢事ノ氏名ヲ書シ
之ヲ裁判所長ニ出ス訣長二十四時内ニ於テ
一々檢點シ之ニ手署シ書記亦之ニ手署ス之
ヲ裁判本書ト云フナリ
本書ハ裁判所ノ書記局ニ留置キ訴訟人ニ渡
サス故ニ首文ノ佛蘭西人民云々ト終尾ノ總
テハ使吏ハ請求ニ應ヒ云々ノ執行力アル法
式ヲ附セス
此ニ誤スルモノハ裁判書ノ寫ニシテ即チ訴

訟人ニ渡ス所ノモノナリ膳寫ハ皆書記ノ手
ニ成ル故ニ書記ノ手署アリト虽モ裁判官ノ
手署ナシ

譯者曰ク治安裁判所ノ裁判書式ハ初告裁
判ト同シ

佛國 重罪審院ノ判決書式

神恩ヲ蒙リ民望ニ因リ佛蘭西皇帝那翁列倫現時及ニ未來ノ民庶ニ祝儀ス

千八百六十四年七月七日巴里府リセリユ町第三十二号住馬車職心ノ井ニ對シ巴里控訴院ニテ為シタル公訴并ニ送付ノ判決及ニ心ノ井ニ對シテ祭シタル身体拘留ノ命令状及ニ千八百六十四年七月七日ノ日附ニテ公訴状ヲ通達シタル旨ヲ記セル調書ヲ見

右公訴状ハ上ニ言ヘル判決ヲ執行セシメシ為ノ大檢事之ヲ記造シ之ヲ被告人心ノ

井ニ送達シタリ
判事長ヨリ下付ノ問題ニ答タル陪審官ノ
陳述ヲ見

民事原告人ノ論結大檢事ノ請求被告人及
其弁護人某氏ノ申立及論結ヲ聽キ
陪審ヲシテ有罪ナリト陳述セシメタルコ
ト井ノ所為ハ刑法第二百九十五条ニ記載
セル重罪タルヲ以テ
該条意ヲ以テ人ヲ殺スラ故殺ノ罪ト云フ
ノ明文ト第三百二条謀殺ノ罪ヲ犯ス者ハ
死刑ニ処ス可シノ明文ヲ見
本院ハ井ニ死刑ヲ申渡シ其外起訴并
ニ施刑ノ費用ヲ政府ニ返納ス可キ旨ヲ申

渡ス

犯罪ノ用ニ供シタル器具ハ毀壞シ其破壊
シタル物件ハ政府ノ倉庫ニ収メ証物物件
ニ用ヒタル贓物ハ之ヲ真所所有者ニ返還ス
ヘキ旨ヲ命令ス
民事原告人ノ論結ニ付テ判決シ井ハ
損害賠償并ニ其附帶ノ入費トシテ民事原
告人ニ何フランヲ拂フ可シ其之ヲ拂ハシ
ムルニハ刑法第五十二条ニ從テ凡テノ方
法ヲ用ヒ強迫スルヲ得可シ
本判決ヲ執行シ刑法第三十六条ニ從ヒ大
檢事ノ請求ニ依リ之ヲ印刷シ及ヒ之ヲ掲
示ス可キヲ命令ス

セーヌ州重罪審院ノ公庭ニ於テ千八百六十四年十月十日裁判シ及申渡ス此公庭ニ出席スル者ハ判事長某君判事某某諸君大檢事某君書記某氏ナリ
總テノ使吏ハ裁判ヲ執行シ大檢事及ニ初告裁判所ノ檢事ハ執行ヲ指揮シ公力ノ總テノ司令官及ニ士官ハ適法ノ請求アル片ハ其公力ヲ貸典ヘンテヲ依頼シ且ツ之ヲ命令ス
真正ヲ證スル為メ本書ニハ捺印アリ
セーヌ州重罪審院書記某手署

佛國違警罪裁判所裁判ノ書式例

神恩ヲ蒙リ民望ニ因リ佛蘭西皇帝那翁列倫現時及未來ノ民庶ニ祝儀ス

「ムーラン」邑ノ違警裁判所ハ次キノ裁判ヲ下ス
「ムーラン」邑治安裁判所ノ使吏「ポリス」氏ノ局ヲ經テ汚穢物ヲ家屋内ニ投入シタルノ件ヲ願ヒ出テ該局ヨリ發シタル呼出狀ノ終尾ニ記シタル原告人「トマ」ト同上ノ呼出狀ヲ以テ法式ニ適シテ召喚サレタル「ベット」ノ間ニ

檢察官「ジュス」氏ノ請求ニ因リ「ベット」ニ對

シ左ノ裁判ヲ下ス

本件ハ被告人ノ面前ニテ書記ノ讀聞セタル千八百八十九年六月六日ノ日附ニテ千

八百八十九年六月七日ニ登記シ警部「ト」
氏ノ記造ニ係ル調書ニ檢証シタル「ベ」ツト
カ汚穢物ヲ人ノ家屋内ニ抛キタル「ト」ナリ
原告人「ト」マ「ト」ハ自己ノ請願ニテ「ベ」ツト「ト」
汚穢物ヲ人ノ家屋ニ投ケ入タル者トシテ
千八百八十九年六月十日ノ日附ヲ以テ同
日ニ登記シタル「ト」治安裁判所ノ使
吏「ホ」リス「ト」氏ノ手ヲ經テ即日「ベ」ツト「ト」余輩
ノ面前ニ呼出サシメタリト陳述セリ
原告人「ト」マ「ト」ハ告訴スル所ノ民事賠償ト
シテ「ベ」ツト「ト」ヨリ六十「ト」ラ「ト」ヲ拂フ可キノ
申渡アラシ「ト」ラ「ト」論結セリ
原告人「ト」マ「ト」ハ「ベ」ツト「ト」所為ヲ証明スル

為メニ自ラ願テ證人ヲ呼出サシメタリト
云「ト」又其証人ノ審問アラシ「ト」ラ「ト」論述セリ
「ト」ツト「ト」ハ汚穢物ヲ投入シハ大醉シ犬ノ吠
来ルヲ逐ノ為メニ投シタルナリト陳シ且
ツ其事實ヲ明白ナラシムル為メ証人ヲ呼
出ラ請求シタリト云ヘリ
論述ヲ聽キ之ヲ審断シ總テ証人ニ事實ヲ
通シタル後テ訟庭ニ於テ各人別々ニ之ヲ
審聽セリ

原告方ノ証人

第一、證人「ト」ラ「ト」村二十八号住農年齢三
十二年「ト」ク「ト」ル「ト」氏眞実ノ陳述ヲ為
スノ誓言ヲ宣タル後「ト」ベ「ト」ツト「ト」ハ曾テ「ト」マ

トニ負債アリテ云云當日途中ニテ出逢シ
ハ酩酊ノ模様ナカリシ云云ト申立タリ

第二、證人

第三、證人

原告方ノ証ニ對スル証人

檢察官事實ヲ略言シ刑ノ適施ヲ論述セリ
ベフトハ故意アリテ汚物ヲ投入タルニ非
ス云云ト弁解セリ

要題

ベフトハ訴トナリタル違警罪ヲ犯シタル
手

原告人ノ論述ハ理アリト判決ス可キ手

理由及法条

裁判所ハ被告人ノ辯護証人ノ陳述民事原
告人ノ申立及檢察官ノ論述ヲ審聽シテ始
審及終審トシテ裁判ス
上ニ云ヘル調書ヲ見

原告方ノ証人及之ニ對スル証人陳述ヲ
俛セ見テベフトハ違警罪ヲ犯シタル者ト
認ム

此違警罪ハ原告ヨリ訴ヘル如ク損害ヲ生
セシメタルモノト認ム

刑法第四百七十五条ヲ見ルニ第八項ニ汚
穢物ヲ人ノ家屋内ニ抛ツ者トアリ
又同条ノ末項ニ此等ノ者ハ六フランヨリ
少カラス十フランヨリ多カラサル罰金ノ

言渡ヲ受ク可シトアリ
ゴツトノ弁護アルヲ以テ裁判ヲ止メス
同人ニ罰金十フラン及入費金額ノ拂方ヲ
申渡ストマルノ論述ヲ審判シゴツトハ民
事賠償トシテ五十フランヲトマルニ拂フ
可キ旨申渡ス
ハ一ラン邑違警罪裁判所ノ公庭ニ於テ治
安裁判官「ロロ」氏裁判所書記「ロロ」氏ノ
陪席ヲ以テ千八百八十九年六月十日裁判
シ及ヒ申渡ス
總テノ使吏ハ裁判ヲ執行シ大檢事及初告裁判
所ノ檢事ハ執行ヲ指揮シ公力ノ總テノ長官及
士官ハ適法ノ請求アルキハ公力ヲ貸與セシムラ

依頼シ且ツ之ヲ命令ス

真正ヲ証スル為メ本書ニ捺印アリ

治安裁判所書記「ロロ」手署

譯者曰ク懲治裁判所裁判ノ書式ハ違警罪裁
判所裁判ノ式ト全ク同シ判決末文ニ代訟人
ノ出席ヲ記スルノ異ナルアルニナリ

第一 罰金宣告書式

某郡

被告人某ハ去ル何年何月何日某郡某所ニ於テ

成法ノ式ニ背キ何々罪(此所ニ犯罪ノ模様ヲ記

載ス)ヲ犯シタルヲ以テ何年何月何日某郡治安

裁判官タル余某ノ面前ニ正當ニ告訴セラレタ

リ

故ニ余ハ前記ノ犯罪ニ因リ本犯ヲ罰金ニ處シ

合衆王國ノ正貨若干磅ノ金額ヲ納ム可キヲ

判決ス

本犯ニ適用スヘキ成法(此所ニ成法ヲ掲載ス

何年何月何日某郡治安裁判官タル余某ノ手記

鈴印ヲ附シ以テ之ヲ交付スルモノナリ

第二 禁錮宣告書式

某郡

被告人某ハ去ル何年何月何日某郡某所ニ於テ
成法ニ背キ何々ノ罪(此所ニ犯罪ノ模様ヲ記載
ス可シ)ヲ犯シタルヲ以テ何年何月何日某郡治
安裁判官タル余某ノ面前ニ正当ニ告訴セラレ
タリ
故ニ余ハ右ノ犯罪ニ因リ本犯ヲ何年何月何日
間某郡某所ニ於テ監禁スヘキモノト判決ス(苦
役或ハ密室監禁ナレハ其次第ヲ附記スヘシ)
何年何月何日某郡治安裁判官タル余某ノ手記
鈴印ヲ附シ以テ之ヲ交付スルモノナリ

編者判決ヲ
寫出ス

外国人ノ執行願ニ
關スル裁判管轄ニ
民事裁判
レール氏編千八百
六十九年判決録

サニテ女ハロイヌ民事裁判所判事局ニ請願シ
該女カ先キニ「ジャック」氏ヨリ得タル不特定ノ遺
囑ノ占有ヲ許シタルアロンノ裁判所白耳義國
ノリユキザンブル州ノ裁判長ノ申渡ヲ佛蘭
西ニ於テ執行セン「」ヲ訟求セリ
千八百六十八年十月三十一日左ノ理由ニ依リ
請願ヲ受理セサルノ裁判ヲ下セリ
死者「ジャック」氏ハ以前巴理ニ住シタル「」アリ
ト雖モ其本籍ハ白耳義國ユキザンブル州ア
ロン郡中「」イシユニアリテ其相續開始ハ即チ
此地ニ於テセリ
此故ニアロン裁判所裁判長ハ請願者サニテ女

ニ「ジャック」氏ヨリ典エタル不特定ノ遺囑物ノ
占有ヲ許可スルニ管轄ナリ
故ニ「サント」女ハ正當ニ「ジャック」氏ノ相續ヲ受
ケ財産ノ「リユキザンブル」其他ノ地ニアリテ
相續ヲ組成スルモノ、所有者トナリシモノト
見做サルヘカラス
若シ外人ヨリ該女ノ權利ヲ執行スルニ當リ異
論ヲ申立ルキ此外人ニ對シ其争ヲ裁判スルハ
公庭ニ於テ對質ノ手續ヲ履ムヘシ判事局ニ於
テ審断スヘキモノニ非ス
依テ此請願ハ受理判決スヘキモノニ非スト申
渡ス
於是「サント」女ハ控訴ヲ起セリ

判決

審院判決ス「アロシ」民事裁判所(白耳義「リユキザ
ンブル」ノ裁判長ノ申渡ニ依リテ「ジャック」ノ
不特定ノ遺囑者タル「サント」女ハ其遺囑物ノ
占有ヲ得タリ其遺囑物ノ中ニハ佛蘭西地内ニ
存在スル所ノ財産アリ又遺囑者ノ記名アル佛
蘭西通用ノ手形類ニシテ受遺囑者ノ姓名ニ書
換エント欲スルモノアリ
外國裁判所ノ申渡ヲ佛蘭西ニテ執行セシカ為
メ「サント」女ハセ「リユキザンブル」民事裁判所ノ判事局ニ請
願書ヲ呈セリ
去ル十月三十一日ノ裁判ヲ以テ占有許可ノ申
渡ハリユキザンブル其他ノ地方ニ存在セル

財産ヲ包含セル遺囑物ニ適用ス可キモノナレハ管轄ノ如何ヲ問ハス判事局ニテ請願ヲ受理審判スヘキモノニ非スト言渡シタリ

〔カ〕ニテ女ハ此裁判ヲ本院判事局ニ控訴シタリ
〔占〕有許可ノ申渡ハ裁判上ノ決定ニシテ外國判事之ヲ申渡シ佛國ニテ執行スルニハ先ツ佛國判事ノ執行免許ヲ得サルヘカラス又其執行免許ニ付テ佛國判事ノ管轄ハ外國ニ於テ下シタル判決ノ性質ニ從テ定マルモノナリ
〔此〕元則ニ從ヒ占有許可ノ申渡ハ特ニ民事裁判長ノ管轄タル裁判上ノ所為ナルヲ以テ執行ノ件ヲ判決スルハ裁判長ノ裁判權ニアリテ判事局ノ裁判權ニ屬セサルナリ

〔依〕テ控訴ヲ不理トス云云

千八百六十九年二月二日〇巴理控訴院第二局ノ第一裁判長ドウ井ヤニ氏〇第一大代官士ゴユフレ、ラサール氏

損害要償連 民事裁判シレ氏編千八百
六十九年判決録抄譯

千八百六十六年六月五日「ハジヤン、シユル、セー

又名地ヨリエベルノシ名地ニ通スル街道ニ於テ二

個ノ馬車衝突ス其一ハ「レゼール氏之ヲ馭シ其一

ハハ「トリアルシユ氏之ヲ馭セリ「レゼール氏ノ馬

車中乗客「レユア氏ノ夫婦地ニ顛倒シ「レユア

レ女之ヲ為メ大傷ヲ被シ此所為アルヲ以テ

「レセール氏及「ハ「トリアルシユ氏ハ「トリコノ懲

治裁判所ニ引致セラレ「レゼール氏ハ馬車ヲ過度

ニ疾驅セシメ右不注意ニテ無故意ノ折傷ノ罪ヲ

犯シ又「ハ「トリアルシユ氏ハ規則ニ及シ道路ノ中

央ヲ馳驅シ無故意ニテ折傷ノ罪ヲ犯シタルモ

編者判決文
儘馬出ス

ノト認定し且ツ之ヲ申渡シレゼールニ禁錮三
日罰金五十フランシボトリアリシユニ罰金十フ
ラシヲ宣告シ兩人連帯ニテ訴訟入費ヲ拂フヘ
キ旨ヲ申渡シタリ
是ニ因リテジユフレ女ハレゼール及ヒボトリ
アリシユニ對シテ民事要價ノ訴ヲ起シ連帯ノ
申渡アラシラ論求セリ
千八百六十七年三月十二日トリユ民事裁判所
ノ裁判ハ被告兩名ヨリ原告ニ對シ連帯スル
ナリ償金トシテ畢世年金百八十フランヲ其三
分ノニハレゼールヨリ約メ其三分ノ一ハボト
リアルシユヨリ拂フ可キ旨ヲ申渡シタリ連帯
ノ問題ニ付テ裁判ニ理由トシテ掲クルト左ノ

如シ
寡婦ジユフレ女ノ顛倒ト其顛倒ノ結果タル傷
疵ハレゼール及ヒボトリアルシユノ身ニ付キ
別々ニ責ヲ帰スヘキニ個ノ所為ヨリ生スレゼ
ールハ大ナル不注意ノ罪アリト認定サレタリ
又ボトリアルシユハ規則違反ノ罪アリト認定
サレタリ、此二個ノ犯罪ハ同一個ノ結果ヲ生シ
タリト雖モ別々ニ離シタルモノナリ、同謀ナク
又夕害ヲ加ルノ同意ナケレハ二犯者ノ間ニ連
帯ヲ生スヘキ連續ナシ、刑法第五十五条ハ共犯
罪ノ所為ニ限リテ連帯ヲ許ス、此法条ハ本件ニ
適施スヘキナシ
ジユフレ女ノ控訴ニ依リ千八百六十七年十二

判決文ヲ寫出ス

月十四日巴理控訴院ハ下ニ云フ所ノ理由ニ據
リ連帶ノ義務アルモノト審判セリ
寡婦^レユ^レフ^レシ^レ女ニ被^レラ^レシ^レメタル傷疵ハ^レボ^レトリ
アル^レシ^レユ^レ及^レレ^レゼ^レシ^レカ先キニ所^レ刑トナリタル
一個ノ輕罪ヨリ生^ス、刑法第五十五條ニ據^レハ
一犯罪ヨリ生^{スル}民事賠償ハ其犯者ニ連帶シ
テ拂^フヘキ旨ヲ申渡^ス可^シトス
該條ノ適施ハ刑事裁判所ニ民事ノ訟求ヲ為^シ
タル場合ノミニ限^ルニ非^ス、民法ノ規則ハ訟求
ヲ受^ケタル法廳ノ性質トハ關係ナキモノナリ
其他控訴人ハ^レレ^レゼ^レル^レ及^レボ^レトリアル^レシ^レユ^レニ別
々ニ責^ラ帰^スヘキニ個ノ原素併合シテ原因ト
ナリテ變災ヲ生^シタル一個ノ犯罪ノ被告人タ

リトス

依^テ賠償ハ連帶スヘキ旨ヲ申渡^ス云々

ボ^レトリアル^レシ^レユ^レノ上告シタル主意^レユ^レフ^レニ
加^エタル損害ハ一個ノ犯罪ヨリ生^シタルニ非
ス所^レ為^及ヒ思意ノ共通ナクシテ犯^シ全ク相^ヒ
離^レタルニ個ノ過失即チ一ハ馬車疾馳ニ付大
注意アリ他ノ一ハ單ニ規則ヲ違反^シタルヨリ
生^シタル損害ナリ然^ルヲ控訴院ノ判決ニテ賠
償連帶ノ義務ヲ申渡^{タル}ハ刑法第五十五條ニ
背^クモノナリトス

判決

審院判決ス(刑法第五十五條ノ文面ニ據^レハ同
重罪又ハ同輕罪ノ申渡^ヲ受^{タル}者ハ凡^テ罰金

以下判決文ヲ
寫出ス

返還、賠償、訴訟費用ハ連帶ニテ其義務ヲ負フヘ
シトアリ
トリコ懲治裁判所ノ確定ノ力アル裁判ハ「セ
ル及バ」トリアルシユハ千八百六十六年六月
五日「ロ」ジヤン、シユル、セ「リ」ユヨ「リ」エ「パ」ル「ン」ニ
通スル所街道ニ於テ兩馬車共一ハ過度ニ疾馳
シタルニ依リ他ノ一ハ千八百五十二年八月一
日法律ノ第九條ニ背キ道路ノ中央ヲ馳タルニ
依リ互ニ衝突顛倒シ寡婦「シ」ユ「フ」レニ對シ故意
ナク傷痍ヲ被セタルモノナリト申渡シタリ、右
ノ所為ハ二個ノ相「ヒ」離レタル原因ノ密合シタ
ルモノヨリ成リタル一犯罪ニシテ二個同一ノ
犯罪ニ非ス、此故ニ「レ」ゼ「ル」及「バ」トリアルシユ

ハ民事ノ訴訟ニ付テ損害ノ賠償ヲ連帶スヘキ
モノナリト判決シタルナリ兩人間ニ所為及意
思ノ共通ナシト抗言スルモ懲治裁判所ノ裁判
ニ決スル所後令双方相同シカラスト虽モ兩人
共ニ犯罪ニ加入シ而シテ其犯罪ニハ意思ヲ問
ハサルモノトナシタルヲ以テ此抗言ヲ理ナキ
モノトス

依リテ「バ」トリアルシユニ「レ」ゼ「ル」ト共ニ控訴
院ノ判決ノ如ク償金拂方ヲ連帶スヘキ旨ヲ申
渡ス巴理控訴院ハ刑法第五十五條ニ背クニ非
ス至當ノ適施ヲ為シタルモノナリ故ニ上告ヲ
却下ス云々

千八百六十八年十二月一日 請願局

司法省文庫

第539號

裁判長 ドン・ジヤン氏
大代官士 フアブル氏
判事 キーコマル氏
代官人 アルベル・ジゴ

539

539

539